西陵高校新聞

発行
長崎県立西陵高等学校
新聞部

部員

〔3年生〕
川﨑和音・菅 海光
渋谷如那・藤田倖奈
渡海楓果・山口陽香
荒島美鈴・髙森心優嘉
牧野咲花・丸亀有莉乃
弥永佑泉・山口菜々子

〔2年生〕
陣野斗哉・山下柚乃
甲斐怜奈・木下兆太

〔1年生〕
八戸朱花莉

ブロックプレゼン
青、黄　両ブロック優勝

構成、演技で観客を魅了

ドラえもんワールドを展開する青ブロックのプレゼン（上段）、息がぴったり、かわいい笑顔で踊る黄ブロックのみなさん

青ブロック

応援団長の石井翔さん（3ー4）にプレゼンテーションの本番を聞くと「ダンスは今までで一番大きな声を出し、周りに檄を飛ばすなど、真剣に取り組んだ。練習を重ねるにつれ、みんなが全力で取り組むようになった。結果、全体が一体となってパフォーマンスを行った。」と語った。

小島浩志さん（3ー3）に取材を行った。「ダンスは、みんなに感謝しかない。」と話した。

昨年度に行って興味をもらえるようにと、ダンスの指揮を副リーダーの原田晃太郎さん（3ー5）とエッサッサの指揮をとった。「ハリをつけて、自分が一番目立ちたい。」と語った。

「入場する時の連携を取るのが難しかったが、本番ではみんな全力を出し、素晴らしい動きができていてよかった」と笑顔で語った。（陣野・木下）

のび太役、青団応援団長の松尾さん。楽しそう

「we are blue!」と青団プレゼンの締めの掛け声とともに、団員への感謝を述べた。（菅）

黄ブロック

応援団長の石井翔さん（3ー4）にプレゼンテーションの本番を聞くと「ダンスは今までで一番大きな声を出し、周りに檄を飛ばすなど、真剣に取り組んだ。練習を重ねるにつれ、みんなが全力で取り組むようになった。結果、全体が一体となってパフォーマンスを行った。」と語った。

小島浩志さん（3ー3）に取材を行った。「ダンスは、みんなに感謝しかない。」と話した。

昨年度に行って興味をもらえるようにと、ダンスの指揮を副リーダーの原田晃太郎さん（3ー5）とエッサッサの指揮をとった。「ハリをつけて、自分が一番目立ちたい。」と語った。

「入場する時の連携を取るのが難しかったが、本番ではみんな全力を出し、素晴らしい動きができていてよかった」と笑顔で語った。（陣野・木下）

爽やかな笑顔でダンスを披露。黄団応援団長の石井さん

集団演技
エッサッサ　全学年男子
ソーラン節　2・3年生女子
まつりのんのこ　1年生女子

「よし、やるぞ」、気合十分

ソーラン節

体育祭の集団演技「ソーラン節」が今年も多くの生徒・観客に感動を与えた。その踊りの裏には総リーダーの数日前から存在があった。ソーラン節総リーダーの脇園結名さん（3ー4）に取材した。

「とにかく楽しく終われるアイディアを出しあって、楽しみながらエールを送りたい。！」と笑顔で語った。

「練習は決して楽しくなかった。達成感は、特に本番を終えて、全員で乗り越えてきたこと、本番直前の円陣だったと強調する。」

「かけ声の一体感を感じたのは、自分の今回の成功だと思う。」

「みんなの心が一つになり、全員で振り返る瞬間、本番の笑顔を見せたい。」

「練習中、2年生のリーダーに感謝している。来年の後輩たちが積極的に動いてくれて、ふだんの練習にプラスの力を加えてくれた。」

「ソーラン節の言葉は、確かな手ごたえと仲間への感謝で溢れていた。」（牧野）

力強いエッサッサ

まつりのんのこ

1年生女子による「まつりのんのこ」の集団演技は、初めて踊ったときは、うまく踊れなかったと思っていたよりも難しかった。

「友達と教え合うのが楽しくなってきて本番では、揃った演技ができたと思う。」

「習を重ねるうちに、何度も練習を重ねるうちに、手の動きや皿の音がピッタリ揃ってきた。」と話し、何度も練習した集団演技が広がり、本番で本番の笑顔で楽しんで踊れるように、特に踊るときに意識した。」と明るく振り返る。

元気に踊る1年生女子

指揮は原田さん（3ー5）、太鼓は小島さん（3ー3）

「西陵全開Max」 各競技、白熱Max

勝ちにこだわり、本気の表情

give me a chance

みんなに祝福され「嬉しかった」

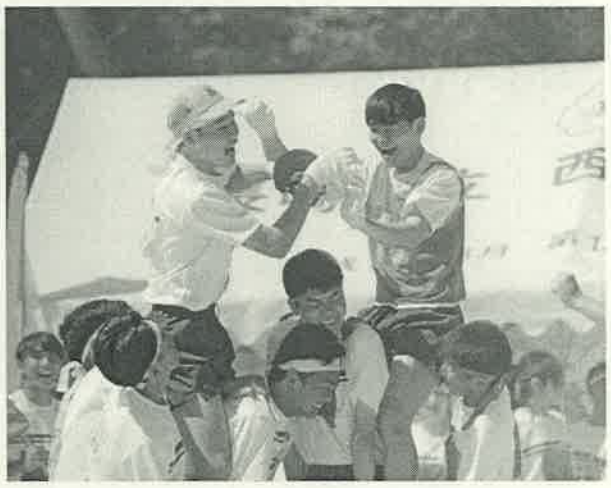
金原さんと結ばれた古場乃絵留さん（3ー4）

Give me a chanceに出場した金原慎さん（3ー1）を取材した。金原さんは「高校最後の体育祭だから全力で楽しみたい」と述べ、「『結婚相手にしたい人』というお題が自分に当たるとは思っていなかった。お題を見たときはとても驚いた。一緒に走るとき少し緊張したが、先生や生徒、保護者の方など観客のみなさんも盛り上がっている様子をみて緊張がほぐれ堂々と走ることができた」と笑顔。走り終わった後は友人に祝福されたと嬉しそうに話してくれた。（山口陽）

作戦通り、勝利掴む

『新種目』騎馬戦　黄勝利

一進一退の攻防をくりひろげる様子。砂埃が激しく舞う


黄団の土井さん（左）が赤団大将の井水さんのハチマキを奪った瞬間

「騎馬戦」は4人で一チームを作り、計6騎（うち一騎は大将）で戦った。今年度始まった新競技だ。かぶっている帽子を取られるか、騎馬から落ちたらアウト。チーム全員が取られたら負けとなる。2、3年生の男子の競技で、白熱した戦いとなった。

初優勝を飾ったのは黄ブロック。黄ブロックの大将を務めた立石泰陽さん（3ー3）は「2試合のブロックの作戦で戦った。まず、簡単に帽子を取られないように帽子のサイズを小さくして臨んだ」と教えてくれた。騎馬になった小林大治さん（3ー3）は「騎手が思っていたよりも支えるのが大変だったが、優勝の暴れまわっていたぞれと笑顔で話した。良かった」と伝わってくる試合となった。（渡海）

勝利が決まり喜ぶ黄団のみなさん

あわせて一組しか脱落しなかった。黄ブロックの強さを見せつけることができた。圧倒的な強さを見せた黄ブロックの作戦を聞くと「大将である自分が狙われるのを見越して、自分に群がってきた人たちを背後から倒すという作戦で戦った。また、簡単に帽子を取られないように帽子のサイズを小さくして臨んだ」と教えてくれた。騎馬になった小林大治さん（3ー3）は「騎手が思っていたよりも支えるのが大変だったが、優勝の暴れまわっていたぞれと笑顔で話した。良かった」と伝わってくる試合となった。（渡海）

渦巻リレー　黄勝利

練習なしでつかんだ勝利

全力で走る黄団男子のみなさん

米村崇楽さん（2ー1）と松本伊織さん（2ー1）は「一度も練習をせずに本番を迎えたため、チームの足を引っ張らないかと不安だった。本番の中で全員がだんだん上達していき、徐々に距離を縮めることができた。最下位でアンカーにまわってきたが、コーンを回り、戻る際の直線を全力で走り、棒をジャンプするときは低くし、上を通す時には高く上げることを心掛けた。

部活動対抗リレー

文化部でも輝きたい

演奏しながら走る吹奏楽部のみなさん

部活動対抗リレーは今年度から文化部も参加できるようになった。女子の部は吹奏楽部、男子の部は調理部、科学部、吹奏楽部が出場。一位は、吹奏楽部（男女とも）、おふざけ部門が陸上部（男女）、バスケ部、男子がバレー部だった。ラグビーの小松祐貴調理部長は「高校の部活動のアンカーを務めた立石泰陽さん（3ー4）は「この3年間の集大成をこの舞台で見せることができた。リレーメンバーで話した。本番成功するように練習してよかった。なぜ参加したかについて話す。

フライパンを持って走る調理部

「調理部創設以来初めて参加だった。文化部で一番目立ったのは体育祭で輝けることを証明したかった」と自信満々。吹奏楽部の森茜さん（3ー6）は「結果は最下位だったが悔いはない。強敵は「食」への情熱を感じた調理部だった。来年の吹奏楽部は速さを重視したい」と話した。

「毎年文化部部門はない出場した理由について大喜びで参加した。楽しかった」と満面の笑み。来年もいろんな部活動が参加してほしい。（渋谷）

進撃の大玉　黄勝利

さまざまな工夫を考えた

力を合わせて球を転がす黄団

進撃の大玉で黄ブロックのアンカーを務めた林田楓我さん（2ー1）に取材した。練習で工夫したことについて「真ん中の人の動きを特に意識した。両手を使える真ん中の人が全体の移動をして、横の2人はその動きを微調整するようにした。各々のチームで様々な工夫をして取り組んだ」と積極的な姿勢を語った。「最初は他のブロックと比べて団結できていない雰囲気で少し不安だった。練習するうちに自信を持てるようになった。一人一人が全力で走って優勝できてとても嬉しかった。最高の思い出になった喜びを笑顔で」と優勝した喜びを笑顔で話した。（山口）

ダンシングキャッチザポイント

仲間を鼓舞し全員で楽しむ

ダンシングの運営に携わった松尾優希さん（3ー2）は、頑張ったことについて「ダンシングで使う曲の選曲や編集などに特に力を入れた。昼休みなどの時間を使って、競技に参加する人たちを集めてダンスの練習をした。本番は仲間を鼓舞しながら全員でダンスを披露できてとても楽しかった」と運営の仕事についての苦労とともに、楽しかった思い出を語った。ダンシングに参加していた山村美伊さん（2ー4）は「頑張ったことは自分が楽しく競技を行えるようにダンスの練習に特に力を入れた。本番は競技を盛り上げられたと思う。反省していることは、ダンスに意識を注ぎ過ぎたことで、競技の主な部分をおろそかにしてしまったことだった玉入れを振り返り、「本番は満足に踊れなかった。緊張していたこともあって動きが硬くなってしまった」と悔しさをにじませた。一番楽しかった曲は5曲目の「cheer up」だと笑顔で話していた。（陣野）

赤団勝利

楽しく踊る赤団 のみなさん

工夫した戦略で走り抜ける黄団女子のみなさん

ー位でゴールできた。とても嬉しかった。先輩方がリーダーシップを取り、チームを鼓舞していた姿が印象的だった。笑顔で語った。（渡海）